News Letter

2026年11月13日

報道関係各位

大和ハウス工業株式会社
代表取締役社長　大友 浩嗣
大阪市北区梅田 3－3－5

大和ハウスグループ5プロジェクトが「ウッドデザイン賞2026」を受賞

大和ハウスグループは、一般社団法人日本ウッドデザイン協会が主催する「ウッドデザイン賞2026」において、当社グループ過去最多となる、5プロジェクトが受賞しました。これにより、当社グループは同賞9度目、累計19プロジェクトの受賞となります。

なお、「SHINONO-BA @DPL東京東雲」は、「2026年度グッドデザイン賞」※1とのダブル受賞となりました。

「ウッドデザイン賞」は、木の良さや価値を、デザインの力で再構築することを目的として、優れた建築・空間や製品、活動や仕組み、研究等を募集・評価し、表彰する顕彰制度です。これによって日本の木づかい製品や取り組みの消費者認知と市場の拡大を目指しています。今回は計235作品が入賞しました。

JAPAN WOOD DESIGN AWARD 2026

＜受賞作品一覧＞

顕彰部門	受賞作品名	受賞企業
ソーシャルデザイン部門	SHINONO-BA @DPL東京東雲 （「2026年度グッドデザイン賞」とダブル受賞）	大和ハウス工業株式会社 平岩構造計画 株式会社ARSTR 株式会社ピース・アーキテクツ 株式会社シェルター 西松建設株式会社
ハートフルデザイン部門	FUTATABI FUTABA FUKUSHIMA	大和ハウス工業株式会社 大和ライフネクスト株式会社 藤寿産業株式会社 株式会社ワタザイ 株式会社地球中心デザイン研究所
ライフスタイルデザイン部門	フジタ技術センター付属棟「続（つづく）」	株式会社フジタ
	木製ロマンスカー展望席	株式会社フジタ 小田急電鉄株式会社
	ジオ島本	株式会社フジタ 阪急阪神不動産株式会社 福原信一建築設計事務所 MOF合同会社 株式会社オノツカ

※1. 参考：https://www.daiwahouse.co.jp/about/release/house/20261015163002.html

■大和ハウス工業の建築の木造・木質化の取り組み「Future with Wood」について

大和ハウス工業では、事業を通じてカーボンニュートラルの実現、森林資源循環に貢献するため、これまで取り組んできた戸建住宅だけでなく、事務所、店舗、賃貸住宅などにおいても積極的に木材を活用することを目的に、2025年4月、「Future with Wood推進部」を設立しました。事業横断で建築物の木造・木質化を推進し、お客さまのカーボンニュートラルニーズに応えることを目的としています。
https://www.daiwahouse.co.jp/business/fww/index.html

Future with Wood

＜ソーシャルデザイン部門　建築・空間分野＞

■「SHINONO-BA @DPL東京東雲」について

「SHINONO-BA（シノノバ）@DPL東京東雲」※2は、都市型物流施設「DPL東京東雲」（東京都江東区）の敷地内にある、町会集会所や防災倉庫、守衛室・物流施設利用者のエントランスなどで構成された木造平屋建ての地域貢献施設です。大和ハウス工業が開発する物流施設「DPL」において初となる木造建築を取り入れた建物で、2026年4月に竣工。隣接する緑道公園と一体で、地域に開かれた公共空間を創出しました。

国産材を100%使用し、繊細な木造表現を行いやすいH型組柱を採用するとともに、異なる勾配屋根を持つ棟を雁行配置し接合させることで、意匠と構造安定性の両立を実現。「都市インフラと地域社会を木でつなぐ」をコンセプトに、大規模な物流施設に親しみやすい街並みを形成しました。

※2. 参考：https://www.daiwahouse.co.jp/about/release/house/20260406124509.html



【「DPL東京東雲」と「SHINONO-BA」】



【「SHINONO-BA」内観】



【国産杉を使用したエントランス】



【H型組柱を採用した列柱】

＜ハートフルデザイン部門　建築・空間分野＞

■「FUTATABI FUTABA FUKUSHIMA」について

「FUTATABI FUTABA FUKUSHIMA」※3（運営事業主：大和ライフネクスト株式会社）は、震災以降、復興が進む福島県双葉町で、「東日本大震災・原子力災害伝承館」に隣接するリトリート型ホテルとして、大和ハウス工業の設計・施工により2026年3月に竣工しました。「双葉にたくさんの“ふたたび”をもたらす」をコンセプトに、宿泊・研修・会議機能を備え、人と地域の再生をつむぐ新たな交流拠点を創出しました。

木造・木質による空間体験を通じて双葉町の未来に寄り添うため、ホテル棟の5階部分と共用棟において木造を含む混構造※4を採用。柱や梁などの構造部分には福島県産材を含む国産材を100%使用するとともに、福島県内の企業に木材の製造・加工を委託することで、地域産業と一体となり建設を行いました。

※3. 参考：https://www.daiwahouse.co.jp/about/release/group/20260601104734.html

※4. ホテル棟は木造と鉄骨造、共用棟は木造と鉄骨造・鉄筋コンクリート造をそれぞれ組み合わせている。



【ホテル棟外観】



【ホテル棟 5 階スパラウンジ】



【共用棟「ふたばの本棚」外観】



【共用棟「ふたばの本棚」内観】

（写真提供：Nacása & Partners Inc.）

＜ライフスタイルデザイン部門　建築・空間分野＞

■『フジタ技術センター付属棟「続」』について

『フジタ技術センター付属棟「続（つづく）」』※5は、神奈川県厚木市に位置するフジタ技術センターの付属棟として、フジタの最新の環境技術・製品を盛り込み設計・施工し、2025年9月に竣工しました。

フジタが2025年に開発した鉄筋コンクリートと木を組み合わせたハイブリッド構造「FWdPC®（エフウッドピーシー）構法」※6や、間伐材耐火外壁「カンタイパネル」※7を初めて実装。二酸化炭素排出量削減と資源の有効活用を実現した「バイオ炭インターロッキングブロック」※8を外構の舗装材に採用するなど、フジタの最新の環境配慮技術を実証・展示する施設です。

今後、実証結果を中高層木質建築などの建設に活かし、環境価値の追求と人の心を豊かにする空間づくりにつなげてまいります。

※5. 参考：https://www.fujita.co.jp/works/26316/

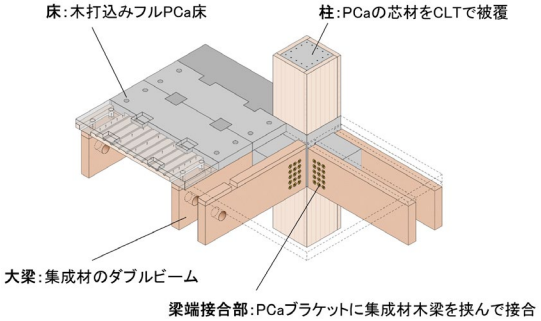
※6. 木材で覆われた鉄筋コンクリート柱や、天井面が木材となる鉄筋コンクリート床版などで構成し、鉄筋コンクリートの頑丈さと、木材による炭素固定機能を兼ね備えた、ハイブリッド構法。
参考：https://www.fujita.co.jp/tech_center/facilities/annex/fwdpc.pdf

※7. 60分耐火認定を取得した、中高層建築物向けのカーテンウォール。「ウッドデザイン賞2025」受賞。
参考：https://www.daiwahouse.co.jp/about/release/house/20251111134345.html

※8. セメントの一部を高炉スラグ微粉末やバイオマスガス化発電の副産物であるバイオ炭と置換することで、温室効果ガス排出量を実質ゼロとした環境配慮型の歩道用舗装材。
参考：https://www.daiwahouse.co.jp/about/release/group/20241127101030.html



【『フジタ技術センター付属棟「続」』外観】



【FWdPC®構法】

■「木製ロマンスカー展望席」について

「木製ロマンスカー展望席」※9は、フジタが設計・施工し、2023年9月に完成した「検車が完了したロマンスカーが出庫する姿」を表現したオブジェです。小田急電鉄小田原線「海老名駅」改札口とペデストリアンデッキで直結した「ロマンスカーミュージアム」（神奈川県海老名市）内にあります。

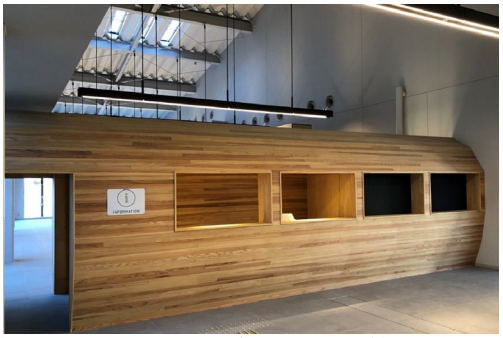
富山県産スギを使用し、来場いただいたお客さまに、「小田急らしさ」と「木製の親しみやすさ」を感じていただける仕様となっており、先頭部の展望席は記念撮影を楽しめるフォトスポットとしても親しまれています。

建物のコンセプト「Playing Garage ―魅せる検車庫」を体現したデザインとし、建物内に続く車体部分はインフォメーションカウンターとして活用。まちに開かれたレストランとエントランスをゆるやかにつなぎ、来場者の案内と館内散策への期待感を高める役割を担っています。

※9. 参考：https://www.odakyu.jp/romancecarmuseum/



【「木製ロマンスカー展望席」外観】



【「ロマンスカーミュージアム」内に続く車体部分】

■「ジオ島本」について

「ジオ島本」※10（大阪府三島郡島本町、建築主：阪急阪神不動産株式会社）は、JR京都線「島本駅」徒歩2分の分譲マンションで、フジタの設計・施工により2025年9月に竣工しました。当物件は、「JR島本駅西土地区画整理事業」が行われた一区画に位置する、全362戸の大規模集合住宅です。

当施設への耐火性・耐久性や維持管理の観点から、大規模集合住宅では導入事例が少ない木造工法に挑戦。島本町の自然環境や景観等の記憶を多世代で受け継ぐ顔として、地域の皆さまに愛される歩行者緑道と一体となる木造屋根付きの回廊「コリドー」を設けました。

厚さ約15㎝のCLT板※11が約38mの長さで折れ繋がって屋根・天井面を形成。三角形の板の連なりが背後の北摂山系の山並みを表現する稜線※12となっています。施工には、3D設計データを元に屋根材となるCLT板を工場で精密に加工し、現地へ納入するオフサイト化工法※13を採用。加工時に残るCLT端材を施工現場で型枠や仮組架台などに再利用し、廃棄ロス低減に注力しています。

※10. 参考：https://www.fujita.co.jp/works/26821/

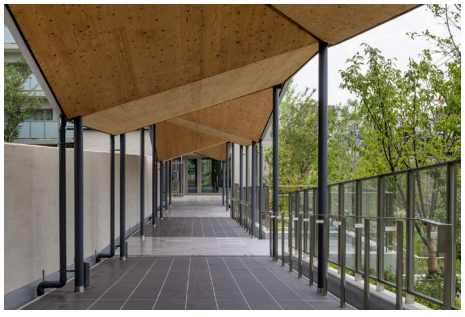
※11. Cross Laminated Timberの略称。木材の板を繊維方向が直交するように重ねて接着した木質系材料。

※12. 屋根面が山形に折れ、面と面が交わる線。

※13. 主に、工場などで部材をあらかじめ加工・製作し、現場で組み立てを行う工法。



【「ジオ島本」コリドー外観】



【「ジオ島本」コリドー内観】

以　上

お問い合わせ先		
広報企画部	東京広報グループ	03-5214-2112
	広報グループ	06-6342-1381